

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370489

研究課題名(和文) 現代日本語と韓国語における条件表現の対照研究 語用論的連続性を中心に

研究課題名(英文) A Contrastive study on conditionals on modern Japanese and Korean: Focused on pragmatic continuity

研究代表者

金 智賢 (Kim, Jihyun)

宮崎大学・語学教育センター・准教授

研究者番号：40612388

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代日本語と韓国語の条件表現カテゴリーの間に見られる語用論的連続性の実態を対照的に分析した。具体的には、予測条件と前提条件、前提条件と主題、予測条件と継起、継起と理由の語用論的連続性が日韓でどう異なるかを明らかにした。また、ユニークな条件形式である日本語の「ト」、韓国語の「eoya」について分析を行い、その特徴を独自の枠組みで捉え直した。さらに、譲歩条件の「逆説性」や条件形式としての「テハ」と「eoseoneun」について対照的に観察し、共通点と相違点を整理した。以上の分析結果は、日韓の条件表現の特徴を示すとともに、通言語的なカテゴリーとしての条件を考える上でも示唆を与える。

研究成果の概要(英文)：These series of studies carry out a contrastive analysis on the pragmatic continuity between conditional categories in both modern Japanese and Korean languages. The discrepancies between the pragmatic continuity of Japanese and Korean - predictives and hypotheticals, hypotheticals and topics, predictives and sequentials, and sequentials and causals - are clarified in earlier sections of the studies. The properties of Japanese 'TO' and Korean 'EOYA' are described respectively in the original framework, which are unique for the conditional forms. The conception of paradoxicality of concessive conditionals of the two languages are also discussed comparatively. The final account compares similarities and differences between Japanese 'TEWA' and Korean 'EOSEONEUN' in their use as conditional forms. These series of observations suggest some possible implications for universal conditionals, in addition to showing distinct characteristics of the Japanese and Korean languages.

研究分野：対照言語学

キーワード：日韓対照 条件表現 語用論 韓国語 日本語

1. 研究開始当初の背景

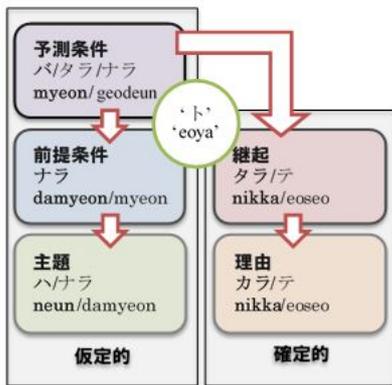
(1) 条件文においては多々の研究があり、日本語においては、阪原(1985)、益岡編(1993)、有田(2007)、中島(2007)など集約的な研究が活発で、主に条件文と理由文を中心とした意味分析が主流となっている。

(2) 条件表現の対照研究は、条件形式の意味を対照的に網羅するといった日本語教育の観点からのものを除くとほとんど行われておらず、条件表現間の連続性を視野に入れた理論的な対照研究は不在している。

2. 研究の目的

(1) 条件カテゴリーの間には語用論的連続性が存在する。本研究は、現代日本語と韓国語の条件表現における語用論的連続性のメカニズムを解明し、通言語的なカテゴリーとしての条件について再考しようとするものである。

<日韓条件表現の全体像>



(2) 現代日本語と韓国語における、予測と前提条件の間、前提条件と主題の間、予測条件と継起の間、継起と理由表現の間に見られる語用論的連続性を体系化することを目指す。

(3) 日本語と韓国語では、以上のような条件カテゴリー間の連続性に共通点と相違点がともに見られる。その実態を対照的に記述し、それぞれの言語の条件表現における特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 日本と韓国で公開されている大規模の言語資料(コーパス)や実際の言語社会で使われている生の用例から例文を検索するとともに、独自の議論に用いるためのデータ化を進める。

(2) 研究分担者及び研究協力者と定期的に打ち合わせし、それまでの研究の進捗状況と今後の研究計画について議論を行う。なお、文法性や容認性判断などデータに関する検証、言語データの追加などもその際に行う。

(3) 研究目的に沿った各テーマ、予測条件と

前提条件の連続性、前提条件と主題の連続性、予測条件と継起の連続性、継起と理由の連続性に関し個別研究を行う。さらに、ユニークな形式とされる日本語の「ト」及び韓国語の「eoya」、譲歩条件の逆接性、「テハ」と「eoseoneun」の対照をテーマに個別研究を行い、日本と韓国における学会で発表する。発表内容は、図書にまとめて刊行する。

4. 研究成果

(1) 予測条件(「バ」「myeon」)と前提条件(「ナラ」「damyeon」)は、日本語でも韓国語でも連続しているが、その連続のメカニズムは異なる。仮定的条件の中心的な意味である予測性と前提性が、各形式によってどのように表れるかを観察した結果、日本語は予測性の高い予測条件で「バ」が、韓国語は前提性の高い前提条件で「damyeon」が用いられやすい一方、日本語は前提性が低くても「ナラ」が用いられ、韓国語では予測性が低くても「myeon」が用いられるという対称的な現象が見られた。予測性と前提性はそれぞれ、「バ」「myeon」、「ナラ」「damyeon」の中核意義であるが、「バ」と「damyeon」はその中核意義を固く維持しようとする傾向がある一方、「ナラ」と「myeon」はあまり制約がなく、「バ」と「damyeon」の領域まで広く用いられることから、日韓のズレが生じることを見た。各形式が有する予測性と前提性の度合いは、予測性は「バ」>「myeon」、前提性は「ナラ」<「damyeon」のように示すことができる。このうち、「damyeon」は最も制約が強く、条件形式としての文法化が進んでいないと見ることができる。

<仮定的条件における予測性と条件形式>

総称的	論理的・自 然的	反復的・慣 用的	社会的必 然性	個人的必然 性
バ	バ	バ	バ ナラ	バ ナラ
myeon	myeon	myeon	myeon	myeon ?damyeon
予測性高			予測性低	

<仮定的条件における前提性と条件形式>

ソース明 示的	非現実的	未実現の未 来	真偽不明 事態	反事実過 去
ナラ	ナラ	ナラ	ナラ バ	ナラ バ
damyeon	damyeon	?damyeon myeon	damyeon myeon	damyeon myeon
前提性高			前提性低	

(2) 前提条件と主題の間の連続については、特に、名詞に続く「ナラ」と「damyeon」が、典型的な前提条件から主題表現に連続していくメカニズムを解明するのに焦点を当てた。統語上の前提性を維持する傾向が強い「damyeon」と、前提性が薄れやすい「ナラ」の特徴は主題への連続にもそのまま当てはまり、「ナラ」の方が、言語化されていない部分を前提的に取り上げることで、独自の主題用法に拡張していくのを見た。

<前提条件と主題の連続性と日韓条件形式>

代表例	日本語	韓国語
もし作家が故人{なら/*は} だれでもその名前を使ってものを書くことができる。	ナラ	damyeon
とても大切なお友達{なら/*は} 「彼は仕事の都合でこれせんが。」と言い、貴方だけでも参列されてはどうでしょう?	ナラ	damyeon
貴女のこと愛してる彼{なら/?は} 30秒くらいで「もういいよ」って言ってくれるかも。	ナラ ?ハ	damyeon ?neun
浅岡さん{なら/は} よく知っています。	ナラ ハ	damyeon neun
山本さん{なら/は} ピアノが上手ですよ。	ナラ ハ	neun
スパゲティ{なら/は} 作れるけど。	ナラ ハ	neun

(3) 予測条件と継起の連続については、「タラ」がどのように仮定的条件と確定的条件を表せるようになるかに焦点を当て、韓国語の場合と対照分析した。その結果、「タラ」は、固有の特徴である個性が故に、仮定的条件と確定的条件を表せるが、韓国語では仮定的条件と確定的条件が形式によって明確に区分されることを確認した。この分析では、「タラ」の継起用法を概観しながら、「nikka」「eossdeoni」「deoni」「ja」など韓国語の多様な対応形式を取り上げた。

<仮定的条件と確定的条件の連続>

条件	仮定的条件		確定的条件	
	一般的条件	個別的条件	きっかけ/発見/発現	連続
日本語	バ	バ タラ	タラ	タラ テ
韓国語	myeon	myeon	nikka deoni	eoseo go
条件性	一般的・法則的		個別的・経験的	

(4) 継起と理由の連続についての議論では、様々な継起用法を有する「タラ」が理由表現に拡張されないのに対し、「nikka」は理由表現に拡張していくのを見た。「タラ」も「nikka」も継起性を有することから継起用法を表すが、「タラ」の継起性は物理的な時間の流れに沿った事態間の継起を、「nikka」は話者の認識の流れに沿った、事態に対する認識間の継起をそれぞれの本質としていることから、「タラ」は継起的な仮定的条件と確定的条件に、「nikka」は確定的条件の継起と理由にまたがる用法を有することを指摘した。

<継起と理由の連続と「タラ」「nikka」>

条件	仮定的条件		確定的条件	
	一般的条件	個別的条件	継起	理由
日本語	バ	バ タラ	タラ	カラ
韓国語	myeon	myeon	nikka	nikka
継起性	事態間		認識間	

(5) 日本語の特徴的な形式である「ト」を取り上げ本研究の枠組みで再考察した。「ト」は、「タラ」と同様、仮定的条件と確定的条件のどちらの用法も有する。「ト」は仮定的条件では、予測性・一般性の高い条件を表すが、前提性のある条件には用いられないことから、仮定的条件形式としては不完全であることを指摘した。「ト」の確定的条件用法は継起であるが、継起用法を対照的に分析した結果、「ト」は、「nikka」「eossdeoni」「deoni」のような状況性は持たず、単純継起を表すことを確認した。これは「ja」の特徴でもあるが、「ja」は「ト」と違って仮定的条件には用いられず、韓国語では、仮定的条件と確定的条件の境界が明確であることを再度確認した。

<「ト」の位置づけ>

条件性	仮定的					確定的		
	前提的	予測的			個別的			
条件用法	前提	(連続的)		予測	(連続的)	個別	継起	理由
	日本語	ナラ	ナラ	バ	バ	バ タラ	タラ	タラ
韓国語	damyeon	damyeon	myeon	myeon	myeon	myeon	nikka deoni	nikka ja

(6) 韓国語の特徴的な形式である「eoya」を取り上げた。「eoya」は、仮定的条件の順接条件と譲歩条件（逆接条件、逆条件）の用法を有する珍しい形式であるが、本書ではそれを可能にする「eoya」独自の意味の解明に焦点を当てた。「eoya」は、仮定的条件の因果関係を表しながら、事態に対する話し手の心的態度を示すことを中枢意義としている。本研究ではこの意味を必須性と呼んだ。必須性は、条件の論理的な意味より話し手の心的態度にかかわるモダリティ的な意味で、「eoya」が順接条件用法と譲歩条件用法を同時に有することができるのは、必須性によるものと指摘した。

<「eoya」の位置づけ>

	順接		逆接	
	順接仮定的条件 (狭義の条件文)	逆接仮定的条件 (譲歩条件文)	順接確定的条件 (継起文、理由文)	逆接確定的条件 (譲歩文)
仮定的	バ タラ ナラ ト myeon eoya	テモ eodo eoya		
確定的	タラ ト カラ nikka deoni eossdeoni ja	テモ eodo eoya		

(7) 「テモ」「eodo」「eoya」を取り上げ、譲歩条件の逆説性について論じた。譲歩条件の逆説性については、事態間の依存関係を否定する場合と聞き手の期待を否定する、即ち、認識間の依存関係を否定する場合があることを確認した。「テモ」はこれらの譲歩条件に広く用いられるが、必須性に基づいた

「eoya」の極端にモダリティ的な用法には用いられないことを見た。一方、「eodo」は「テモ」よりも、事態間の依存関係を示す用法に傾いており、「テモ」と「eodo」を単純比較すると、「テモ」の方がより広い譲歩条件をカバーしていると言える。韓国語では、「eodo」はより中立的な譲歩条件、「eoya」はよりモダリティ的な譲歩条件にと、形式が分化していると言うことができる。

<譲歩条件と形式>

譲歩条件用例	譲歩条件形式	逆説性要素
明日雨が降っても井の頭公園にお花見に行きます。	テモ eodo	↑ 想定的・必須性無・事態間・命題的・中立的
サンフランシスコに行ってもケーブルカーに乗らない方がいいですよ。	テモ eodo	
ここで待っていてもバスは来ませんよ。	テモ eodo eoya	
jibe dolaga boaya eodeoteojigina hal teji. (家に帰っても殴られるだけだ)	テモ eoya	
jeo naie jeo momeulo dalana boaya eidigessu? (あの年である体で逃げても、どこへも逃げられないだろう)	eoya	非想定的・必須性有・認識間・モダリティ的・否定的

(8) 「テハ」条件と韓国語の対応表現を対照分析した。「テハ」と、対応形式の「eoseoneun」の共通用法を概観した後、相違点を分析しながら、「テハ」条件の意味を確認した。「テハ」と「eoseoneun」は、個別的・具体的・確実な前件を取り上げ、対比的な後件の事態を述べるという共通の用法を有するが、「テハ」は独自の条件形式へと文法化が進んでいるのに対し、「eoseoneun」はそうでないことを指摘した。そのズレの要因として、「テ」と「eo」「eoseo」「go」の対応関係のズレを示し、これらの接続表現が「ハ」や「neun」などによって取り立てられ条件形式化するメカニズムが異なることを明らかにした。

<条件の「テハ」と「eoseoneun」の用法>

	仮説的条件	事実的仮説条件	反事実的条件	一般条件	過去の評価	一回性の事実的事態	評価的用法
テハ							
eoseoneun			×			×	

<条件を表す日韓の複合形式の対応>

日本語	意味	韓国語
テモ	条件(譲歩)	eodo
-	条件(必須(譲歩))	eoya
テハ	条件	eoseoneun (/goneun/eoseoya/ goseoneun/goseoya)
テハ	反復	goneun (/eoseoneun)

(9) 本研究では、主に二つの条件カテゴリー間の語用論的連続性を中心に考察し、その連続性が連鎖的につながっていくことを見た。語用論的連続性そのものは、二つのカテゴリー間でのみ起こるものではなく、さらに、より広い文法カテゴリーや文レベルでも適用できる概念であると言える。語用論的連続性とは、結局、特定の発話文脈において、話し手による事態の把握と表現意図がどこまで広がり得るかという問題と関わっているのである。本研究は、条件表現というカテゴリーをもってその一部を描き出したものである。このようなアプローチは通言語的なカテゴリーとしての条件を考える上でも示唆を与えるものと考えられる。

<引用文献>

- 有田 節子、日本語条件文と時制節性、くろしお出版、2007
- 阪原 茂、日常言語の推論、東京大学出版会、1985
- 中島 悦子、条件表現の研究、おうふう、2007
- 益岡 隆志編、日本語の条件表現、くろしお出版、1993

5. 主な発表論文等

[学会発表](計8件)

- 金 智賢、仮定条件の仮定性と前提性について 日韓対照研究、日本言語学会第149回大会、2014/11/15-16、愛媛大学、予稿集 172-177
- 金 智賢、条件と主題の語用論的連続性について 日韓対照研究、日本言語学会第151回大会、2015/11/28-29、名古屋大学、予稿集 104-109
- 金 智賢、継起と理由表現の語用論的連続性に関する日韓対照研究、韓国語日文学会冬季国際学術大会、2015/12/19、韓国外国語大学(ソウル)、予稿集 98-104
- 金 智賢、条件と継起の連続性に関する日韓対照研究、第247回朝鮮語研究会、2016/2/13、東京大学
- 金 智賢、「ト」条件節について 韓国語との対照研究、韓国語日文学会夏季国際学術大会、2016/6/18、ハンバット大学(韓国大田)、予稿集 97-103
- 金 智賢、「-eoya」構文について 「必須条件」の日韓対照研究、第249回朝鮮語研究会・第5回朝鮮語教育学会・朝鮮語研究会合同大会、2016/9/10、東京大学
- 金 智賢、譲歩条件の「逆説性」について 「ても」と「-eoya」を中心に、韓国日本言語文化学会秋季国際学術大会、2016/11/12、仁荷大学(韓国仁川)、発表論文集 88-93
- 金 智賢、条件的用法としての「ては」と「eoseoneun」の対照研究、韓国語日文学会冬季国際学術大会、2016/12/17、崇實大

学（韓国ソウル） 発表論文集 88-93

〔図書〕(計1件)

金 智賢、ひつじ書房、現代日本語と韓国語における条件表現の対照研究 語用論的連続性を中心に 、2018、208

6. 研究組織

(1)研究代表者

金 智賢 (KIM, Jihyun)

宮崎大学・語学教育センター・准教授

研究者番号：4 0 6 1 2 3 8 8

(2)研究分担者

小熊 猛 (KOGUMA, Takeshi)

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号：6 0 3 1 1 0 1 5

(3)研究協力者

生越 直樹 (OGOSHI, Naoki)

山下 藍 (YAMASHITA, Ai)

横山 コリーン (YOKOYAMA, Colleen)